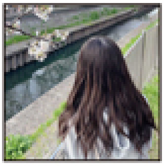
The Fourth Year

今月号から、新メンバーが参加してくれました！　今回は、「仏教の教えが知りたい！」という新メンバーのリクエストを受け、「SDGsと仏教」をテーマに勉強会を行い、その感想や自己紹介を書いてもらいました。

○Minaty・中学3年生

新メンバーのMinatyです。文章を書く力を伸ばすことと、普通の中学生では体験できないことをやりたいです。僕は美術部に入っていて、粘土で作品を作っています。作品には、リアリティが必要です。『岸辺露伴は動かない』というドラマに出てくる漫画家の岸辺露伴は「リアリティこそが作品に生命を吹き込むエネルギーでありリアリティこそがエンターテイメントなのさ」と、言っていました。〝リアリティ〟は自分で体験しないと表現できないので、若いうちに多くの体験をしたいです。

　最初の活動で仏教のお話を聞きました。そこで僕は仏教の人間観に共感しました。人間は生まれつき清き心がありますが煩悩により清き心が汚れていくという話に興味を持ちました。僕は人間とは、不完全だからこそ、様々なことを求める生き物だと考えています。それを煩悩というのなら、僕はそれは悪いことじゃないと思います。煩悩があるからこそ変化できるし、煩悩がある人間も愛おしいです。他人の不完全を理解し受け入れ合うことで、つながりができる気がします。これが仏教で言う「慈悲」にもなるかなと思いました。



○ののは・高校1年生

　去年から引き続き執筆を担当させていただきます。高校1年生、ののはです。最近では「SDGs」の知名度も上がってきましたね。大手企業でも「SDGsへの取り組み」などを公表しているところが増えてきましたが、一方で「SDGsウォッシュでは？」と指摘

を受ける企業も見られます。「SDGsウォッシュ」とは、SDGsに取り組んでいるように見せかけて実態は伴っていないことを表す造語です。例えば、HPでSDGsへの取り組みを発信しているが、実は具体的な行動を起こしていないことなどを指します。これではSDGsの達成には辿り着けません。そこで大切になってくるのが、今回のお話の中にあった、仏教における物事の本質を深く見定める力を意味する「知恵」だと思います。日常生活で何かを買う際に、その商品の背後に隠れているものを見定めることが、私たちにも求められています。正しい知識と自らの判断によって小さな行動を起こすことで、それがいつしか世界を変えるカギになってくるかもしれませんね。

○るーな
・高校2年生

高校2年生のるーなです！　今年度もよろしくお願いします。私は今回「貪」「知恵（物事の本質を深く見定める力）」の二つに自身の経験を重ねて考えてみました。私は問題の本質をリサーチし見極め、その解決策にも本質を見出すなど「知恵」を大切にしています。しかしその意識は「貪」となっているのではないかと感じることがあります。例えばチームでコンテストに取り組んでいて、チームが思いつきなどでどんどん進むと、自分とは違うやり方にストレスを感じてしまいます。しかし私のやり方は仕事量が多く、遠回りのように思えるのも確かです。だから私の「知恵」の実践はメンバーの迷惑になる、つまり他人からみると私なりの「知恵」は「貪」になりうると考えたのです。そこで私はどうするべきか。SDGs17のパートナーシップで多くの人と多様な活動を行っていくためにも、この答えを模索していきます。

○さとこ
・高校1年生

高校1年生のさとこです。私は、ものづくりやダンスなど、何かを表現して、伝えることが好きです。

中学校に『てらスクール』の冊子が置かれており、今までは読者として、学びの機会をもらっていました。今までの私は、社会のことについて向き合うとき、自分で考えて、悩んで、調べて、家族に話して終わりでした。高校になり、それらを文章という方法で表現して、誰かに伝えることに挑戦したいと思い執筆者として参加することを決めました。『てらスクール』というメディアを持った一員として、様々なことにアンテナを伸ばして頑張っていきます。

以前からとても関心を持っていた仏教についてのお話を初めて聞き、歴史的に世界と宗教が密に関わってきたことを実感しました。SDGsを達成するため、そして、変化していく多様な社会で生きるため、答えのないものに向き合い、問い続けなければいけない中で、「仏教という答えがある」ということは、強い心の支えになると思いました。

○あおい・高校1年生

今年度から執筆をさせていただくあおいです。実際に取材したことや体験したことをみなさんに伝えられるよう頑張ります。

私が通っている高校は仏教系の学校です。週に一度仏教の授業があり、様々な形で日常生活の中に仏教が根をおろしています。

さて、SDGsという言葉は、多くの人が一度は耳にしたことがあると思います。国連が採択した17の目標は仏教が最も大切にしている世界観「縁起」と「無常」と密接に関わっていることを先日の講演会でご教授いただきました。

そしてそれはきっと、私が毎日昼食前に唱和している「五観の偈」にも通じると思いました。いのちをいただき、自身の糧とする意味を深く問う五つの偈文「五観の偈」。今、飽食が進む現代社会において、SDGsを達成するために私たちが改めて心に刻むべきことではないでしょうか。目まぐるしく過ぎ去っていってしまう大切な日々の中で、仏教という真心の世界を自分自身の心に留め置いて生きていきたいと思いました。

協力：一般社団法人シンク・ジ・アース／新渡戸文化高等学校教諭　山藤旅聞